

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	11130
政策名(章)	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります	評価担当部	保健福祉部
基本施策名(節名)	第1節 福祉文化の創造とバリアフリーの推進	評価担当課	保健福祉総務課
施策名	バリアフリーによる福祉のまちづくり	課長名	江藤 弘

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

福祉活動への主体的な参加を促進し啓発活動を積極的に推進するとともに、福祉教育の充実を図り市民の理解と関心を深める。また、公共的建築物や、道路、公共交通機関、公園などの整備は、バリアフリーを推進し障害者や、高齢者等の社会参加に向け移動手段の充実に努める。

社会福祉の推進について、福祉月間(9月15日から10月15日)事業の中で市民に福祉への理解と認識を深め、福祉活動への参加を促進している。また、障害者や、高齢者への福祉機器の情報提供や、相談を実施している。さらに、駅舎にエレベータ設置費の一部を助成し移動の円滑化を推進している。

2 事業費・人員

(単位:千円)

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		418,396	
人件費		13,685	
市民一人あたりの事業費	753	648	
合計	463,840	432,081	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

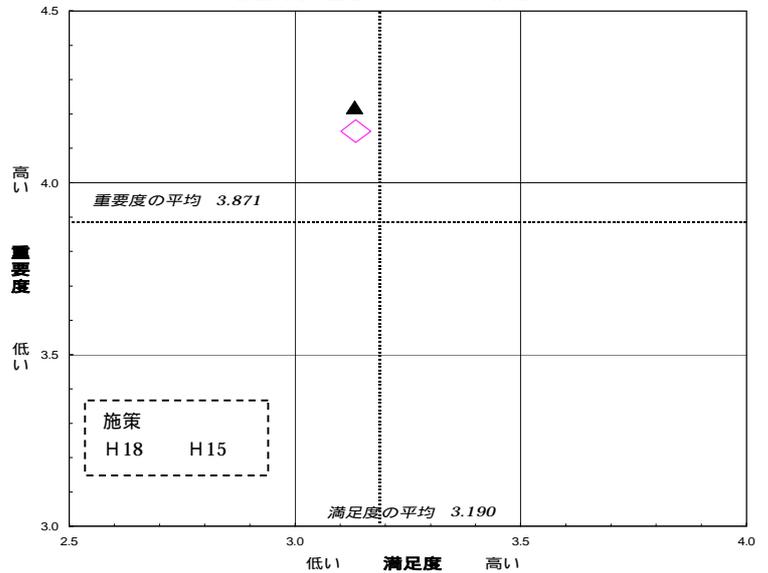
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	鉄道駅舎におけるエレベーター等設置率	鉄道駅舎エレベーター設置箇所/要エレベーター等設置鉄道駅舎箇所	11箇所 100%	H17
指標2	2m以上の歩道整備率の増	2m以上の歩道 / 歩道のある道路延長 × 100(%) 2m以上歩道延長:158.7km(H16未現在) 歩道のある道路延長:241.2km(H16未現在)	65.80%	H16
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1 達成率	11 / 11 100%	19	エレベーター等の設置を要する鉄道駅舎12箇所	21	エレベーター等の設置を要する鉄道駅舎12箇所	エレベーター等の設置を要する全ての市内にある鉄道駅舎にエレベーター等を設置する
指標2 達成率	161 / 159 98.9%	19	165.9m(68.8%)	21	170.8m(70.8%)	毎年整備率増加1%を目標とする。
指標3 達成率	#DIV/0! %					
指標4 達成率	#DIV/0! %					
指標5 達成率	#DIV/0! %					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.135で調査した51施策中32番目。重要度は4.150で10番目である。改善要望度は0.2362で11番目である。年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。重要度は、順位でみると60歳代、70歳以上を除く年齢で上位10施策に入っている。前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4②1	・民営鉄道駅舎垂直移動施設整備事業補助金、福祉機器展示室運営経費等 駅舎にエレベーター等を整備する際に経費の一部を助成するなど障害者や高齢者に配慮した環境整備が進んでおり円滑な移動に効果をあげている。また、バリアフリーによる福祉のまちづくりは、市民が障害者や高齢者の基礎的知識を学習するとともに互いに交流を深め、理解しあうための有効な施策である。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4②1	・福祉月間事業(市民福祉の集い開催費)等 障害者や高齢者の社会参加意識が高まることで、バリアフリーのまちづくりに向けて福祉教育や啓発活動を堅実に進めることが効率性を高めている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4②1	・身体障害者ケア付住宅設置運営事業、福祉月間事業(市民福祉の集い開催費)等 いわゆるハートビル法の改正などが行われ、バリアフリーに対する関心の高まりと取り巻く環境が変化している。その中で、福祉への理解を深めるための啓発活動は、より必要とされてきており社会的ニーズに対応している。	
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	福祉月間における事業について、多くの市民が参加することができるように内容を検討し、参加者の増加を図り、啓発活動を充実させることが重要と考えられる。
解決策	エレベーターやエスカレーター等をはじめ、バリアフリーに関する整備は、他の施策である人にやさしいまちづくりと連携をとりながら推進する必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業に再掲事業が多く、施策の成果を示すことが難しい。今後、施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

